

KWACHA

編集・発行：日本マラウイ協会 106 東京都港区南麻布 5-10-24 第2佐野ビル 702 Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933

NO.13

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

新政権誕生！

マラウイに新政権が誕生した。5月17日に行われた独立以来初めての複数政党制下での人統細道挙で、統一民主戦線 (UDF) 党首のパキリ・ムルジ氏がマラウイ会議党 (MCP) のカムズ・パンダ博士を破り、大統領に就任した。同時に行われた国会議員総選挙でも177議席中、UDFが86議席、MCPが55議席、AFORD (民主同盟) が36議席を占め、UDFが第一党になった。

パンダ前大統領は、5月19日午前、MBCラジオを通じて自らの敗北を認め、平和的に政権を移譲することを約束した。(関連記事2、3面)

マラウイは昨年6月14日に行われた複数政党制／単一政党制の選択を問う国民投票で、複数政党制の支持が63%を占め、今回の大統領選挙、国会議員総選挙が行われることになっていたもの。これでアフリカ諸国のなかで独立以来政権を担当する国家元首はいなくなった。

マラウイ協会総会開催

平成5年度 (第12回) 日本マラウイ協会総会が、平成6年5月14日 (土) 午後3時から東京・渋谷区広尾の青年海外協力協会婦国隊員研修所にて開催された。

総会では、平成5年度の事業報告、決算承認に続いて、マラウイ国情紹介誌改訂版発行等を盛り込んだ平成6年度の事業計画案および予算審議を行い、両案とも原案どおり承認された。また、役員の一部改選が行われ、松木麻弥子監事の退任、葛木きぬ子氏の監事先任、坂井ひさ子理事の退任、中川氏の理事選任が決定された。

「国際協力」へ写真提供

JICAが発行している月刊誌「国際協力」誌94年7月号に当協会が提供したマラウイの写真が掲載された。

これは同誌が7月号で「夜明けの南部アフリカ」を特集したのに伴い、同誌編集部から、当協会にマラウイの写真提供を依頼してきたもの。本文は南部アフリカの政治体制の変革のなか、マラウイも例外ではなかったことが述べられている。

写真は、10ページと20ページにマラウイ協会提供のクレジット付きで掲載されており、

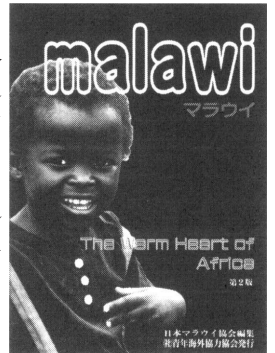
国情紹介誌第2版発行さる！

日本マラウイ協会編集の国情紹介誌「マラウイ -The Warm Heart of Africa 第2版」がマラウイ独立30周年記念日の7月6日に (社) 青年海外協力協会から発行された。

これは10年前に発行した第1版の改訂版で、編集委員会を組織し1年8ヶ月の歳月をかけて発刊にこぎつけたもの。内容は、地理・地形、略史、政治・経済、教育制度、人口、民話、生活体験談、青年海外協力隊とマラウイ、チェワ精選、旅行ガイドの10章に分かれている。

統計数値などは最新のものに改められ、政治の項では今年5月の複数政党制下の選挙による政権交代まで触れられている。また、写真も最近の帰国隊員提供によるものを中心に大きく入れ替えられている。さらに、第1版にはなかった「施行ガイド」が加わっており、隊員候補生はもちろん、OB/OG、派遣中隊員の留守家族の方、まだマラウイを訪れたことがない人にも興味をひく内容となっている。発展途上国を研究している人にも最適の書。A4版40ページ、一部カラー刷り。

当協会では、なるべく多くの方に読んでいただき、マラウイに関心を持っていただくため、国立国会図書館をはじめ、全国の都道府県立中央図書館、国際関係団体にも寄贈した。当協会々員には1冊ずつ無料でお届けしたが、ご希望の方には1冊1,000円、送料240円でお分けする。送金は郵便振替で00190-7-13125 (旧振込用紙による場合は東京9-13125) 日本マラウイ協会まで。通信欄に「国情紹介誌xx冊希望」と記入のこと。



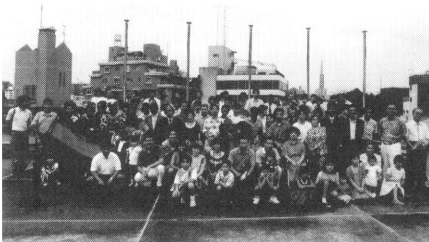
▲国情紹介誌第2版の表紙

前者が沿道で果物・野菜を売る少年、後者がブランタイアの街角の商店をを提えている。同誌の購読は次のところへ。1冊送料とも500円。

〒163-04 新宿三井ビル内郵便局私書箱300号 (財) 日本国際協力センター広報部 TEL03-5322-2551

大懇親会開かれる

毎年恒例の日本マラウイ協会主催の大懇親会 (シマを食べる会) が7月9日 (土) 午後3時から、協力隊事務局食堂で開催された。今回は独立30周年記念、国情紹介誌第2版発刊パーティーの意味も込めて開かれた。当日は駐日マラウイ国大使 Zimani D.Kadzamira 氏夫妻、大使館スタッフ並びに御家族のご参加も賜り、参加者は総勢90名を



▲マラウイ協会テントの様子

超えた。

初めにテープによるマラウイ国家吹奏のあと、事務局正面の物故隊員への献花と全員による1分間の黙祷を行った。

再び会場を食堂へ戻し、秋山会長の挨拶に続き大使が、5月17日の選挙で、平和的に政権交代が行われたが、まだ、貧困、福祉、栄養など多くの分野に問題があり、引き続き日本の各層の協力を受け入れたいと挨拶された。

続いて仲井儀英 JICA マラウイ事務所前所長による乾杯の音頭で懇親会は始まった。

今年も大使婦人、大使館員婦人およびOGの調理による大使館提供のマラウイ産シマが供され、参加者は久々の本場の味に舌鼓を打った。

会はマラウイクイズ大会と進み、最後に屋上に集合して大使や御家族と共に記念撮影を行い、盛会のうちに散会した。



▲「マラウイへの旅 新訂第1版」の表紙

DIGEST
ダイジェスト
マラウイ/日本の
マスコミから**日本政府 3,550 万
クワチャ供与**
マラウイ Daily Times
1994年3月6日号から抄訳

日本政府は3月14日、ゾンバの国家試験局において、総額約3,550万クワチャ(約5億9,200万円)におよぶ2つの供与案件をマラウイ政府と署名した。

債務救助と食料援助の2つの供与は、マラウイ側がルーイス・チマンゴ大蔵大臣、日本側ルサカ駐在の堀内伸介大使によって署名された。

交換公文の署名後、チマンゴ大蔵大臣は、主にメイズの供与に焦点を当てた今回の食料援助は時宜に適したもので、天候不良により国の一部地域で起きている食糧不足問題に対する政府の努力を補うものであると述べた。

大蔵大臣は、日本政府がアメリカやアルゼンチンからマラウイへ供与するメイズについて、マラウイ国内での分配輸送を含む全ての輸送コストを負担することに謝意を示した。

債務救済援助では、日本政府はマラウイ放送協会(MBC)のラジオ送信機、郵便電気通信局の電気通信機器、自治省の消防設備や下水処理浄化槽、各省庁部局の事務機器などを供与する。

大蔵大臣は、今回の資金の額は実効のあるもので、マラウイ政府が始めた貧困軽減施策とマラウイの総合開発を助けるものだと述べた。

大蔵大臣はまた、来る大統領・国会議員総選挙用の投票箱やコンピューター機器、事務機器などを購入するために、日本政府が約570万クワチャ(約9,500万円)を供与する決定したことに対し感謝した。

堀内大使は、マラウイへの援助の原資は日本国民の税金で、使用された全ての「円」について大使自身が報告義務を負っていると述べ、さらに「従って、私は経済を復興するマラウイの努力と複数政党制による民主主義のスムーズな導入を監視するつもりである。」と述べた。

野党、敗北認めるよう要求
アメリカ The Washington Post
1994年5月19日号から抄訳

マラウイ野党統一民主戦線(UDF)指導者達は18日、96才のカムズ・バンダ大統領に、国で初めての複数政党制下での選挙において敗北を認めるよう要求した。UDF事務局長のハリー・トンプソン氏は「彼らは敗北を認めるだけの度量があると期待している。」と語った。

南アフリカにおけるネルソン・マンデラ氏の大統領選勝利で白人統治の集結もみたこの1年で、バンダ氏の敗北は、大陸規模で起きようとしている民主化の動きを勢いづかせるのは明らかであろう。その動きは3年前のベ

ニンとザンビアでの平和的な選挙で始まった。しかし最近、カメルーンのポール・ビヤ氏、ガボンのオマール・ボンゴ氏、ケニアのダニエル・アラブ・モイ氏のような専制者達が権力にとどまるために民主主義のルールを巧みに操ることを学んだため、動きが止まっていた。

政権移譲準備始める
イギリス The Times
1994年5月19日号から抄訳

30年間で初の複数政党制選挙において敗北に向かっているマラウイのバンダ大統領が率いる政権党、マラウイ会議党(MCP)は18日、政権移譲の準備をするため、明らかな後継者と話し合いを持った。

野党である統一民主戦線(UDF)筋によると、両党はUDFへの政権移譲準備のため、それぞれの幹部からなる合同委員会を設置した。勝者となりそうなのはUDFのリーダーであるバキリ・ムルジ氏で、21日に就任式が予定されている。MCPが負けた場合、権力を引き渡すことを拒むのではないかという恐れが広がっていた。また野党は、MCPはモザンビークに準軍事組織を配置し、権力を掌握するため、国になだれ込む準備をしていると非難していた。

時代の終焉
マラウイ The Chronicle
1994年5月20-26日号から抄訳

大統領に当選したバキリ・ムルジ氏は、西側メディアによってルーマニアのチャウセスクの後では最も専制的と評されるバンダ博士による30年間の統治に終止符を打つことを確実にした。

選挙はイギリス連邦監視団により「自由・公正」と評され、また南部アフリカのためのヨーロッパ議員団によっては「完全には自由・公正ではない」と評されているが、バキリ・ムルジ氏は120万票でマラウイ共和国の2代目大統領に就任するとみられている。

MBCラジオで放送された非公式選挙結果では、UDFが87議席、MCPが53議席、AFORDが37議席を獲得した。(最終結果はUDFが86議席、MCPが55議席、AFORDが36議席)

UDFは南部で高い得票率を示し、マンガチ選挙区では3万票以上を獲得した。MBCラジオのレポートによると、得票は種族区域に沿ったものになっており、北部の全議席はAFORDが占め、中部の議席の80%はMCPが、南部の議席の99%はUDFが占めている。

大統領選挙では、20日午前1時に選挙管理委員会が発表した公式得票率は、UDFのバキリ・ムルジ氏が49.08%、MCPのバンダ氏が37.02%、AFORDのチャクフワ・チハナ氏が13.43%となっている。

バンダ氏敗北認める
日本 The Japan Times
1994年5月20日号から抄訳

アフリカで最も長い独裁者、カムズ・バンダ氏は19日、マラウイで初の民主的な選挙で、選挙民が30年間にわたる単一政党による統治に背を向け、バキリ・ムルジ氏に敗北したことを認めた。

高齢で病気のバンダ氏はラジオ放送で声を震わせながら「結果は公式に確認・発表されていないが、これまでの開票結果から、ムルジ氏が大統領選での勝者であるといういろいろな兆候がある。私は、心から彼を祝福し、支援と協力を申し出たい。」と述べた。

バンダ政権での元閣僚であるムルジ氏(51才)はその時勝利を宣言し、歓喜に酔う支援者は道に飛び出した。

「私はうれしい。大統領になったからではなく、とうとうマラウイ国民が勝利したからです。全て国民のおかげです。」と自宅での記者会見で述べた。

ムルジ氏はバンダ氏の言葉に感謝の意を表しながらも「バンダ氏に他に道があったか? マラウイ国民はこの選挙で意志を表したのだ。我々は単一政党国家の下でもう十分長く過ごしてきた。新しい何かが必要。」と述べた。

バンダ氏の放送のすぐ後、たくさんの人々が歌いながら、踊りながら、ムルジ氏のし丁わUDFの旗を振りながらブランタイアの中心部に集まり、1964年にイギリスから独立して以来のバンダ氏による30年におよぶ苛酷な統治の終結を祝った。

ムルジ氏はかつてバンダ氏のMCP(マラウイ会議党)で事務局長を務めたが、伝えられるところでは不明朗な財務扱い一つの原因で1882年に辞任した。その後、彼は野党活動が禁止されていたため、1992年に新しく結成されたUDF(統一民主戦線)に加わるまで地下活動をしてきた。

**アフリカ最後の独裁者、
民主主義に屈す**
アメリカ The New York Times
1994年5月20日号から抄訳

ヨーロッパの植民地主義者を排したアフリカの有力者の時代の最後となる有名な統治者、マラウイのヘースティングズ・カムズ・バンダ氏は19日、選挙民が彼の専制的な30年間の個人崇拜を終わらせたことを認めた。

広く平和的・公正と喝采された投票の後、バンダ氏は新しい政府に協力を申し出て、かわって賞賛と年金を与えられた。

勝者であるバキリ・ムルジ氏は今夜、ブランタイアの自宅からの電話インタビューで「私はバンダ氏を国の父と考える。したがって、我々は確実に、出来る限り彼の面倒をみたい。決して復讐したりはしない。」と述べた。

ムルジ氏はまた、過去の悪弊の証拠を持っ

ている人は誰でも警察に届け出ることは出来るけれども、あえてほじくり出すようなことは考えておらず、過去 30 年に遡って魔女狩りは始めたくないと述べた。

ムルジ氏は 51 才のビジネスマンで、彼のスタイルは星法院 (昔の英国の専断的高等裁判所) 型より商工会議所 (合議重視) 型である。圧倒的にキリスト教信者が多い国の中でイスラム教信者であり、2 人の妻と 7 人の子供がいる。娘の 1 人はミルウォーキーの工科大学の学生である。

アフリカの民主主義

アメリカ The Washington Post
1994 年 5 月 20 日号から抄訳

マラウイ最大の都市、ブランタイアは 19 日、全世代のマラウイ人がカムズ・バンダ「終身大統領」の没落を示すため、黄色の布で身を包み、黄色の T シャツと黄色の野球帽を身につけ、黄色のプラカードや花を振って、歌を歌い、車のクラクションを鳴らすなど騒々しい祝賀で沸いた。

この貧しいアフリカの内陸国を 30 年前にイギリスから独立を勝ち取って以来統治してきたバンダ氏は、17 日の選挙で自分が 3 位であることが判った 19 日早朝に敗北を認めた。彼の譲歩のスピーチがラジオから流れると、喜ぶ群衆が「バンダはもういらぬ!」「勝利!」と叫びながら通りに流れ出た。

大統領選挙の勝者は、バンダ内閣の元閣僚でビジネスマンであるバキリ・ムルジ氏である。彼は、マラウイを世界で最も貧しい国の 1 つにしている地方に広がる貧困を軽減するために、より開かれた政府を運営していくことを約束した。

ムルジ氏は、バンダ氏は前大統領、建国者として尊敬され、住居、年金、公用車を与えられるだろうと述べた。

民主的に選ばれた大統領は、マラウイがここ 2~3 年に見た劇的な変化を証言するように記者団に語った。それらは国際的な圧力、国内の不穏な動き、わずかな意見の違いも無情に押しつぶされる時に野党を組織し、秘密裏に活動し

て投獄と死の危険を顧みないムルジ氏のような 2~3 の個人の勇気によってもたらされた変化である。

トゥンブカ語、放送へ

マラウイ Daily Times
1994 年 5 月 26 日号から抄訳

トゥンブカ語による放送が始まることになった。これは 25 日にブランタイアで行われた内閣就任宣誓式での大統領の指示によるものである。大統領はブラウン・ムピンガンジラ情報放送大臣に対し、トゥンブカ語による放送を再開するよう指示したと述べた。

トゥンブカ語による放送は 1967 年にムズズで開催されたマラウイ会議党年次総会での決定により、MBC ラジオでの放送が中止された。大統領は「美しい言語なので放送が再開されれば素晴らしい。」と述べた。

大統領はまた、情報放送大臣に対し、テレビ網の構築と他言語のための別のラジオ放送チャンネルを検討するよう指示したと述べた。

■ 解説

選挙結果が北部 = AFORD、中部 = MCP、南部 = UDF とはっきり割れたため、北部で話されているトゥンブカ語を放送に導入することによって国民の融和を図ろうとする大統領の施策と思われる。

マス・メディア委員会設置

マラウイ Malawi News
1994 年 7 月 9-15 日号から抄訳

国会は 8 日、個人、政党、政府からの報道に対する暴力 (圧力) をチェックするため、13 人からなるマス・メディア委員会を設置した。

委員会の議長はマラウイ会議党のヘザーウィック・ンタバ博士であり、憲法第 36 章に規定されている「報道の自由」を補強するものである。

ゾンバのチャンセラーカレッジ法学講師で、今回の動議を提出したチティバ北部選出議員のマテンボ・ンズンダ博士は「本委員会は報道の自由と編集の独立性を促進する努力をす

る。報道の自由を妨害するかもしれない政府部局、閣僚、国会議員に対する番犬でもある。」と述べた。

ンタバ議長は報道陣に対し、委員会にしてほしいことを言うように述べたが、ジャーナリスト達は委員会の運営が完全に定義されるまではコメントすることを拒んだ。

エイズ感染率、アフリカで 1 位

マラウイ Daily Times
1994 年 7 月 20 日号から抄訳

国家エイズ抑制局長のジョージ・リオンバ博士はマラウイはエイズにひどく汚染されていることを明らかにし、マス・メディアに対し、この伝染病についての情報提供に活発な役割を果たすよう要請した。

リオンバ博士は 18 日、マンガチ地区のンコボラで行われたエイズ教育に関するラジオ番組と素材収録のための 3 日間の研究集会で、「マラウイはエイズに関する限り、国の人口比で HIV 感染率がアフリカと世界で第 1 位である。」と述べた。また、エイズ・プログラムは 1987 年に始められたが、まだその大部分は政府、特に保健省によって行われており、最近になって NGO や他の政府省庁、私的団体がプログラムに加わるようになったものの、事態は手に負えなくなってきていると述べた。さらに、政府がプログラムを主導していくが、他の団体も積極的に関わる必要があると述べた。

博士はプログラムは国民の行動規範を変えるよう続けなければならないと述べ、男性より影響を受けやすい女性はもっと積極的にプログラムの対象とし、エイズに関する学校教育は真剣に取り上げ支持されなければならないと述べた。



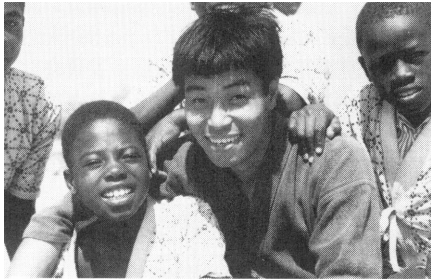
為替レート 94 年 7 月 8 日現在
US \$ 1 = MK7,363

5 月 24 日発足新内閣閣僚名簿

大統領	His Excellency, Mr. Bakili Muluzi	農業畜産開発大臣	Honourable Dr. John Nankumba
副大統領	The Right Honourable Justin Malewezi	保健環境大臣	Honourable Dr. George Mtafu
大蔵大臣	Honourable Aleka Banda	地方自治地方開発大臣	Honourable James Makhumula
商業産業観光大臣	Honourable Harry Thompson	工業補給水道開発大臣	Honourable Patrick B. Mbewe
外務大臣	Honourable Edward Bwanali	国務大臣 (女性子供問題担当)	Honourable Mrs. Edda Chitalo
経済計画開発大臣	Honourable Tim Mangwazu	土地住宅大臣	Honourable Alhaji Saibu Itimu
情報放送大臣	Honourable Brown James Mpinganjira	エネルギー鉱業大臣	Honourable Rolph Patel
内務大臣 (Home Affairs)	Honourable Peter Fachi	青年スポーツ文化大臣	Honourable Zililo Chibambo
防衛大臣	Honourable Dr. Cassim Chilumpha	労働人材開発大臣	Honourable George Kanyanya
文部科学技術大臣	Honourable Sam Mpasu	森林天然資源大臣	空席
文部科学技術副大臣	Mrs. Catharine Chipembere	社会サービス厚生大臣	空席
法務司法大臣	Honourable Wehnam Nakanga	国土計画調査大臣	空席
運輸通信大臣	Honourable Collins Chizumila		

ボランティア剣道クラブ

平成4年度3次隊
土木施行 西村典久



▲剣道を学ぶ子供達と

1992年にこのクラブが発出して以来、2年が過ぎました。剣道、いえ「KENDO」は今やすっかりボランティア市内では有名になりました。市内のあちこちで「KENDO, KENDO」、「メイン、メイン」と声をかけられます。

今までに3度新入生募集を行い、途中でいやになってやめる子が約半分いますが、それ以上に興味を持って続けてきた子供達は現在新人を含めて32名います。練習内容は準備体操から始まり、素振り、そして面をつけて基本打ち、応じ技の練習、地稽古、かかり稽古と日本でやるのと全く同じ内容で、1日約2時間です。年齢は下は8才から17才までの子供達男女が主ですが、みんな日本の同年代の子供達より遅し、運動神経も良く、その上邪念がないので覚

えも早いようです。マラウイ国内では、サッカー、ネットボールが主なスポーツでしたが、最近になってバスケットボールやバレーボール、ボクシング等も行われるようになってきました。剣道が上手になって強くなってほしいと思っていますが、それよりも、耐えること、相手に対する礼儀や思いやり、そして仲間を励まし応援する、そういった日本古来の剣道のもつ良いところを吸収してもらって、彼らのこれからの人生に少しでも生かしてほしいというのが私たちの願いです。

でも、与えるばかりではありません。私自身、剣道を通じて彼らと知り合えたお陰で、職場で仕事がうまくゆかず悩んでいた時、病気になって辛かった時、それを乗り越え、これまで元気に活動してこれたのは、子供達のひた向きな姿と明るい笑顔にいつも囲まれていたからだと思えます。練習中にガンバレ、ガンバレと彼らを励ましていた言葉は実は自分自身に跳ね返ってきていたのではないかと、そんな気がしています。

協力隊にはいろいろなタイプの人がありますが、剣道に関しては素晴らしい先輩に恵まれました。このクラブの生みの親である中川総隊長(平成3年度3次隊)、そして一緒に支えてくれた福丸正勝隊長(平成3年度2次隊)、千崎昌彦隊長(平成3年度2次隊)、和田鉄也隊長(平成3年度3次隊)です。今は大和撫子深谷典子

隊長(平成5年度2次隊)、今村望隊長(平成5年度3次隊)らと共に心地良い汗を流しています。

ある1人の生徒のお母さんが入部希望の申込み用紙に書いていた「娘には剣道を通じて自由な心をもってもらいたい。そして剣道に取り組んでいる間は取り巻かれる全ての問題から解放され、忘れてほしい・・・」という言葉は忘れることができません。

陽気で素晴らしい心をもったマラウイアンの子供達に囲まれて、私は今とても幸せです。

「マラウイ剣道基金」への募金のお願い

ボランティア剣道クラブでは剣道用具が不足しております。現在、有志により剣道用具を贈る運動を行っています。広く皆様方から募金を行い、運送費の一部に当てたいと考えております。金額の多少にかかわらずご協力いただける方は郵便振替に下記講座までお送り下さいますようお願いいたします。

口座番号 00160-9-576943
加入者名 マラウイ剣道基金
締め切り 1995年3月31日
代表者 平成3年度3次隊 中川 総
TEL 0425-87-4450

Information Corner

■バックナンバー読めます

当KWACHA紙と姉妹紙KWACHA News Letter紙のバックナンバーが次のところで読めます。

JICA 図書館 (国情報ファイルボックス518)

〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5

国際協力センタービル内

TEL 03-3269-2301 FAX 03-3269-2421

開館時間: 平日 09:40 - 18:00

休館日: 土日祝日、館内整理日(原則として毎月末)

JICA 設立記念日(原則として8月1日)

(財)日本交通公社 観光文化資料館

〒100 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル1F

TEL 03-3241-6051 FAX 03-3287-1771

会館時間: 平日 10:00 - 17:30

休館日: 土日祝日、12月29日~1月4日

■日本マラウイ協会ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナルを含むマラウイやアフリカ関連などの作品を収録したビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出しております。ビデオテープは全てVHSで収録時間は1本60~120分。好評を博している作品には下記のようなものがあります。会員への貸出しを優先しますが、会員以外の方にも可能な限り貸し出いたします。申込み、問い合わせは葉書で下記の当協会までお願いします。

- (1) The Life in Malawi (協会設立10周年作品、'92年7月)
アフリカの関連音楽をバックに、マラウイにおける人々の暮らしぶりなどを紹介。
- (2) MALAWI 1992 Through the Camera
(Malawi Film Unit '92制作)
表題のニュース番組をはじめ、マラウイ全国の伝統的舞踊などを収録
- (3) MADOLO (Malawi Film Unit '92制作)
マラウイアンミュージシャン・マドローの演奏カンダボンゴマン(ザイール)のマラウイ公演などを収録

■旅行ガイドの有料配布について

日本マラウイ協会では旅行ガイド「マラウイへの旅」(約110頁)を発行しております。当面は暫定版としてコピーしたものを頒布しておりますが、本年末頃には印刷製本したものが完成予定です。ご希望の方は当協会へ代金、送料をご確認の上、お申し込み下さい。

■入会のおすすめ

日本マラウイ協会(Malawi Society of Japan)は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書をお送りしますので、各項目記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です)

〒106 東京都港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル702

日本マラウイ協会

TEL03-3447-2181 FAX03-3447-2933

三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会名誉会長 卜部敬男

郵便振替 00190-7-13125 (旧用紙 東京9-13125)

加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。

■会費納入のお願い

会員の方は平成6年度会費を上記口座へ送金をお願いします。(個人正会員年3,000円) 皆様の会費によって本紙などをお送りしております。各自の負担を均等に心がけていただきますようお願い致します。なお、郵送の必要の無い方は至急お知らせ下さい。